2030年を体験！協力すればなんだってできる

かんたんではないけど

私は、今回初めてSDGs（エスディージーズ）ゲームを体験（たいけん）しました。かんきょう、経ざい（けいざい）、社会というむずかしい言葉がたくさん出てきて、勉強みたいだなと思いました。でもやり始めたら、自分のゴールに向かうために、どういう工夫をすればいいか考えるうちに楽しくなってきました。他の人とも協力してゲームをしました。自分の目標は達成（たっせい）しなかったけど、他の人の目標を達成するのに協力したり、アドバイスをしてもらったりして、どんどん楽しくなっていきました。そのうちにかんきょう、経ざい、社会の言葉の意味も分かるようになってきました。2030年までにかんきょう、経ざい、社会の目標を達成するためには、ゲームのようにかん単にはいかないと思うけど、一人一人が意しきを持つこと、みんなで協力することによって実げんできるのではないのかと思いました。

（小4／R・O記者）

「時間が足りない！」

SDGsを体験してみて、けいざいや、かんきょうや社会のことが少しずつわかってきました。いくら、けいざいのバロメーターが19や20などでもかんきょうが3とかだと、バランスが悪いなど、うまく分けなければならなかったのがむずかしかったです。そして「お金が足りない！」というのは少なくて「時間が足りない！」という方が多くて、おどろきました。わたしは、このSDGsを体験して自分にできるようにしようと思いました。

（小4／H・S記者）

17つの目標

世界には、2030年までに達成する!!と決定した目標がある。それは17つの目標だ。そのゲーム（SDGs）を実際に遊んでみました。お金を大事にする主義（しゅぎ）なので、ともかくお金をためました。バロメーターは「けいざい」は順調（じゅんちょう）にのびていますが、それ以外は止まっています。みんなで「かんきょう」と「社会」を上げよう！といって協力してバロメーターをあげました。

このゲームでわかったことは、「みんなが協力しないと良い世界はつくれない」ということです。はじめのころは「自分の目標を達成しよう」ということにみんなが集中してしまい、「けいざい」のバロメーターだけしかのびませんでしたが、協力すればなんだってのびていきます。世界をよくするためには、「協力」が必要だと思いました。

（小4／S・S記者）

世界がチャレンジ！

世界の国々が2030年までに目標をたて取り組んでいます。実際にゲームをやってみて、お金が集まったりしても、マグネット（環境・経済・社会）が集まっていなかったら、目標をたっせいできないから、バランスが取れていないといけないことが分かりました。むずかしい！

（小5／A・O記者）

人生ゲーム

SDGsゲームは人生ゲームのようなものです。お金、時間、やりがい、プロジェクトのカードを使い、自分の目標を達成します。そして、このゲームは協力も必要です。みんなで、プロジェクトによって変わる「経済（けいざい）」「かんきょう」「社会」をやりくりしていきます。私はこのゲームで、みんなと協力する大切さを学びました。チームになってやることで、お金や時間もつかいやすくなります。これは現実世界でもいえることです。現実では、社会としてチームになっています。

（小4／M・O記者）

『SDGs』とは…

2015年9月の国連（こくれん）サミットで採択（さいたく）された、2030年までの国際目標です。17の目標と169のターゲットがあげられています。SDGs（Sustainable Development Goals：持続（じぞく）可能な開発目標）

文京区はSDGsを支援（しえん）しています。

WAW！2017 国際女性会議に潜入！

外国の記者もたくさん

11月2日、東京プリンスホテルで日本国政府（せいふ）により開催（かいさい）された、WAW！2017国際女性会議（こくさいじょせいかいぎ）を取材しました。

WAW！には、たくさんの外国の人が来ていました。来ていた人は、新聞記者の国際部長のかたや、AFP通信社の東京支局長（しきょくちょう）のかたなどたくさんです。

AFP支局長の人に、「これからぼくたちこども新聞が取材するなかで、オリンピック・パラリンピックのどのようなことに気をつけばいいですか？」とぼくはしつもんしました。支局長は、「オリンピックの人たちもがんばっているけれど、今、知名度（ちめいど）の低いパラリンピックにもたくさん取材してほしいです。」とこたえてくれました。

（小4／S・K記者）

差別がなくなるように

今でも女性の方が差別（さべつ）されている国があるので、いろんな国の人たちは男女平等（びょうどう）にしようと考えているそうです。わたしたちにも何かできることはないのかな、と思いました。ほかの国では女の子が学校に行かせてもらえないという人たちに学校に行かせてあげられるように取り組んでいるそうです。もし、わたしがその国だったら、今はめんどうくさいと思っていますが、いつ学校にいけるのだろう？もし学校に行けなかったら、これからの楽しいことがなくなっちゃうのかな？と思ってしまうかもしれません。女性の差別や学校に行けないという国がなくなるように願いたいです。

（小4／C・K記者）

北郷恭子（ほくごうきょうこ）室長（右）と松田さん（左）